

平成 23 年度後期 授業評価アンケート結果のまとめ

平成 24 年 6 月 20 日

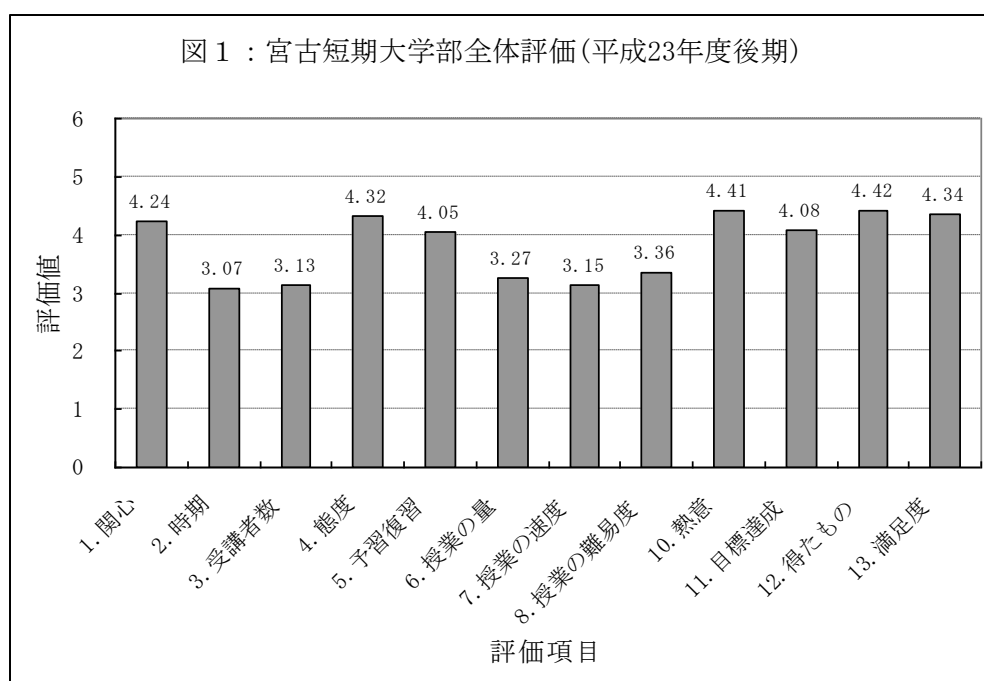
宮古短期大学部 教務・学生委員会

1. 宮古短期大学部の総合的集計結果

平成 23 年度後期の授業評価の総合的結果を図 1 に示す。ここで、図 1 の質問項目のうち、授業の「2 履修時期」、「3 受講者数」、「6 授業の量」、「7 速度」、「8 難易度」の 5 項目は 5 段階評価、「1 授業への関心」、「4 真剣な態度」、「5 予習・復習」、「10 教員の熱意」、「11 目標の達成」、「12 授業で得たもの」、「13 満足度」の 7 項目は 6 段階評価である。

5 段階評価の評価項目では、受講者から見て妥当と思われる場合の評価は 3 であり、この評価値から離れるほど、受講者の人数が多い・少ないなどの評価となり、受講者にとって妥当でないものとなる。

6 段階評価の評価項目では、評価値 4～6 が肯定的評価、評価値 1～3 が否定的評価となり、評価値が高いほどより肯定的な評価、評価値が低いほど否定的な評価となっている。



平成 23 年度後期の授業評価の全体評価として、「2 履修の時期」、「3 受講者数」、「6 授業の量」、「7 授業の速度」、「8 授業の難易度」の 5 段階評価の項目では、評価値が 3.1～3.4 の間に位置しており、おおむね妥当な評価を得ている。

「1 授業への関心」、「4 態度」、「5 予習・復習」、「10 教員の熱意」、「11 目標の達成」、「12 得たもの」6 段階評価の項目では、評価値が 4.0～4.5 の間に位置しており、中間の 3.5 のみならず 4 を越えており、おおむね肯定的な評価を得ていると言える。今後、この評価結果を活かし、さらなる改善を図ることが望まれる。

2. 個別集計結果の特徴

(1) 出席

評価とは直接関係ないが、本学部の特徴である 5 回ごとの授業出席状況調査の集計とその後のきめ細かな個別対応により、欠席が多い学生の早期発見とその対応がなされており、出席率 2/3 以上の学生が 93.1%と、高い出席率を示している。

(2) 「分かりやすさ」に関する評価

宮古短期大学部では、モットーとして「分かりやすい授業」を掲げており、このことに関して、5段階評価の「8 授業の難易度」、「6 量」、「7 速度」の項目と6段階評価の「10 教員の熱意」、「11 目標の達成」、「12 授業で得たもの」、「13 授業への満足」の項目と選択形式の「教員に求める改善」が評価の対象となる。

「8 授業の難易度」では 63.9%(63.8%：カッコ内は 22 年度後期の値。以下同じ)、授業の量では 73.9%(74.5%)、「7 授業の速度」では 80.2%(77.9%)が 3 の評価をしており、学生のレベルにあった「わかりやすい授業」がなされていると思われる。「12 授業で得たもの」では 74.9%(68.8%)、「13 授業への満足度」では 72.3%(68.2%)、「10 教員の熱意」では 74.3%(72.4%) が肯定的な評価（評価値が 4 以上）となっており、「分かりやすい授業」が行われていると思われる。

また、「教員に求める改善」でも、改善を求める項目は「教員の話し方」が 7.3%(13.5%)、「教材や板書の使い方」が 12.0%(17.9%)、「授業内容の構成」が 12.1%(17.4%)と、いずれも 22 年度後期より改善しており、「わかりやすい授業」に向けての取組みが進んでいると思われる。

「11 目標の達成」の項目は、本来学生個人の取り組みではあるが、「わかりやすい授業」の結果としての側面があるので、ここでも言及しておく。4 から 6 の肯定的な評価が 66.1%(62.9%) となっており、前年より向上している。

(3) 「学生の取り組み」の評価

学生の取り組みの評価としては、6段階評価の授業への「1 関心」、「4 真剣な態度」、「5 予習・復習」、「11 目標達成」の項目が評価の対象となる。

「1 授業への関心」では 67.3%(58.6%)、「4 真剣な態度」では 68.5%(61.0%)、「11 目標達成」では 66.1%(62.9%)が肯定的な評価であり、なおかつ 22 年度後期の値を上回っていることから、関心がある授業に対して真剣な態度で臨んでいると思われる。

しかし、授業の「5 予習・復習」では 59.7%(52.6%)が肯定的な評価となっており、前年度よりは改善しているものの、授業への関心や真剣な態度に比べ若干低くなっている。

(4) 今後の課題

全体的に学生からの授業評価は、肯定的な評価となっている。特に、本学における「わかりやすい授業」は、着実に進んでいることが見て取れる。

その一方で、本学の学生にまだ欠けていることは、学習への自主的・能動的な取り組みである。上記でみた、「5 予習・復習」の数値がまだ相対的に低いのは、その現われの一端である。

「わかりやすい授業」をベースとしつつ、「学生が自主的・能動的に取り組む授業」の面を少しずつ伸ばしてしていくことが、今後の課題ではないだろうか。

参考表：全体評価値の「平成 22 年度後期」と「平成 23 年度後期」の比較

	1. 関心	2. 時期	3. 受講者数	4. 態度	5. 予習復習	6. 授業の量
平成 22 年度後期	2.82	3.05	3.09	4.10	3.88	3.24
平成 23 年度後期	4.24	3.07	3.13	4.32	4.05	3.27
	7. 授業の速度	8. 授業の難易度	10. 熱意	11. 目標達成	12. 得たもの	13. 満足度
平成 22 年度後期	3.17	3.36	4.34	3.12	4.24	4.20
平成 23 年度後期	3.15	3.36	4.41	4.08	4.42	4.34